

リリース

関係者各位

2017年7月吉日

アンスティチュ・フランセ日本

フランス政府公式機関「アンスティチュ・フランセ東京」(旧 東京日仏学院) 建築家の藤本壮介氏とともに野心的な増築計画へ



国内外の建築事務所が参加した入札の結果、駐日フランス大使を審査員長とするフランス外務省の審査委員会は、フランス政府公式機関「アンスティチュ・フランセ東京」の再整備事業のために、日本人建築家の藤本壮介氏を指名しました。藤本氏は、歴史的価値のある既存棟2棟の改修と新棟建築の設計・監理業務を行います。

1952年に竣工したアンスティチュ・フランセ東京の建物は、1930年代にル・コルビュジエに師事し、日本人として国際的な名声を得た初めての建築家の一人、坂倉準三氏の設計を今日に伝える貴重な作品です。第一棟は、日本で唯一存在する二重螺旋階段によって知られるようになりましたが、10年を待たずして第二棟が増築されました。その後、数回にわたる改修工事によって、教育、文化、芸術活動の拡大と多様化に対応してきましたが、老朽化や2011年3月の震災などにより構造の強度が十分でなくなったことや、活動のためのスペースが不足してきたことから、新たな整備事業が不可欠となりました。

アンスティチュ・フランセ東京は、アンスティチュ・フランセ日本の5つの支部の中でも、その規模と職員数において最大の施設です。2020年東京オリンピックのオープニングに合わせて予定されているこの大型プロジェクトの竣工は、両国の芸術、文化、言語、スポーツにおける協力関係のハイライトの一つになるでしょう。

藤本壮介氏は1971年生まれ、北海道出身。東京大学で学んだ後、2000年に自身の事務所を設立しました。間もなく、「House N」(2008年)、「Final Wooden House」(2008年)といった個人住宅や、「情緒障害児短期治療施設」(2006年、AR AWARDS 大賞)といった作品を通じて、フォルムの刷新を実験し、同世代の中で最も将来を囑望される建築家の一人となりました。

2012年にヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展に出品、金獅子賞を受賞した後、同じ年に史上最年少でロンドンのサーペンタイン・ギャラリーに招聘され、夏季限定パビリオンを設計しました。2014年には、フランス、モンペリエ市再開発事業「folie architecturale (フォリー・アルシテクチュラル)」第二回国際設計競技において「Arbre blanc (白い木)」で最優秀賞受賞、2016年には、パリ市の「Réinventer Paris (レインベーター・パリ)」国際設計競技対象I地区において「Mille Arbres (1000本の木)」で最優秀賞を受賞しました。

キーデータ

- 対象延床面積：3466㎡（新棟1237㎡を含む）
- 竣工予定：2020年夏
- アンスティチュ・フランセ日本に関するデータ：
 - 正式な財団設立は2013年
 - 受講生：25000名
 - 従業員：250名
 - 年間運営予算1000万ユーロ
 - アンスティチュ・フランセ日本は、東京、横浜、関西（京都/大阪）、九州（福岡）と、アーティスト・イン・レジデンスのヴィラ九条山（京都）の5つの支部から構成され、国内5都市を拠点としています。また、4都市で展開するアリアンス・フランセーズ（名古屋、仙台、札幌、徳島）の他、日仏会館、東京国際フランス学園、リセ・フランセ・ド・京都とも連携して活動を行っています。



アンスティチュ・フランセ東京

プレスお問合せ：津田 桜

電話：03-5798-6008（直） Eメール：sakura.tsuda@institutfrancais.jp

www.institutfrancais.jp